



演出家・熊本一氏



衣装合わせ

音楽と演劇で綴る右近の生涯
義の人・ユスト高山右近

2014年11月15日右近列福祈願公演
やまと郡山城大ホール満席の盛況



司教館で初顔合わせ



信徒館ホールでのけいこ



郡山幼稚園児たち聖歌の練習



多喜真さん、中井さつきさん熱演



大塚司教 舞台挨拶
「舞台で熱演されたように右近は神様の召命にこたえて殉教しました。来たる日、右近の列福を祈りのうちに待ちましよう」



ランディ神父
ホセ神父 熱演



パート2 ユスト高山右近列福



2017年2月7日、
大阪城ホールでユスト高山右近の
列福式が行われました。
場内満員、熱気に満ちました



長年続いた右近子ども祭り



チャーターバスでワイワイ



2016年 司教年頭書簡 御父のように、いつくしみ深く —いつくしみの特別聖年を歩む—
 神父異動 瀧野神父と入れ替わり柳本神父着任 ダン神父沖繩へ、サニー神父、アントニオ神父着任
 2017年 司教年頭書簡 「主こそわが光」—ユスト高山右近にならう聖性への道のり—
 2018年 司教年頭書簡 エコロジカルな回心 —教皇フランシスコ回勅「ラウダート・シ」の呼びかけ—



モデラートルの
瀧野神父と柳本神父が交替

瀧野神父のお別れの会
柳本神父の歓迎会
柳本神父の手話講習会



ダン神父の最後のミサ



アントニオ神父の小聖堂ミサ



サニー神父の歓迎会



当教会における合同堅信式。この時の司教の話が
浦上信徒流配150周年記念イベントの契機となった



「お茶の会」
お国自慢で
盛り上がる

2013年 司教年頭書簡「信仰」パート3 —ともに喜びをもって生きよう—
 2014年 司教年頭書簡「神の貧しさを生きる」—貧しい人々への優先的選択—
 2015年 司教年頭書簡「神の貧しさを生きる」パート2 —心の貧しい人は幸い—



2013年 ホセ神父、シスターポーリン着任



初聖体



インドネシアの留学生サンタさん
奈良工業専門学校卒業して私たちとの別れ



合同堅信式2題



長田先生が郡山市民フォーラムで「浦上信徒流配」について説明



ランディ神父の母上来日

「浦上信徒流配150周年記念実行委員会」8つ教会合同で組成
和歌山、三重・津の史跡巡り、津和野乙女峠祭りに参加



実行委員会



和歌山と津の史跡めぐり



乙女峠祭りに参加



市内の史跡巡り
教会内でパネル展開催



パート3 浦上信徒流配150周年



2019年11月4日「浦上信徒流配150周年式典が開催
各地から流配信徒の縁者をはじめ教会関係者150余名が
集まりました。流配者に倣い、新しい旅立ちを祈りました



浦上教会から巡礼団(2012年)



実行委員会委員一同

2022年～23年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰」
 神父異動 ホン神父韓国へ ランディ神父、ブルース神父着任
 2024年 司教年頭書簡 「わたしのシノダリティを創ろう」
 2025年 司教年頭書簡 すべての人と希望の巡礼者となろう



大塚司教着座25周年おめでとうございます



ランディ神父



ブルース神父(2024年松阪教会へ)



ポーリンシスターからロサシスターへ



出水神父誕生



堅信式2題



フィリピン宣教会60周年



2019年 司教年頭書簡 教会の<もてなし>の使命—国籍を越えた神の国をめざして—



神父異動
 フェリペ神父滋賀へ転出
 ホン・ユンハク神父着任



復活祭パーティー
 合同堅信式
 ベトナム語のミサ
 フランシスコ教皇来日
 ミサ後、ライブ映像を鑑賞



2020年～21年 司教年頭書簡 すべての命を守るために
 コロナ禍で教会も閉鎖を余儀なくされました



大和郡山市歴史フォーラム
 「浦上キリシタンと大和郡山」
 ホセ神父 ローマへ旅たち
 幼稚園新園舎落成



ニュージエント神父帰天の前に
来日、サンタマリアを訪問

教会年表-2(1984~2007)

Table with 5 columns: Year, Bishop, Parish Church Events, Church Events, and Social Events. It covers the period from 1984 to 2007, detailing various religious and community activities.

*印はモデルロール

教会年表-1(1954~1983)

Table with 5 columns: Year, Bishop, Parish Church Events, Church Events, and Social Events. It covers the period from 1954 to 1983, detailing various religious and community activities.



2020年秋冬合併号、「浦上流配信徒大和郡山流配150周年」特集号



2022年冬号、コロナ禍の教会

でめきんーロメモ

「でめきん」ニックネームのいわれを教える

一つ目は、大和郡山とくれば金魚。その王者がユーモアある「でめきん」です。大きな目玉で回りを見渡し、あらゆる情報を本誌に取り込もうと意図されました。二つ目は、初期キリスト教時代には魚がキリストのシンボルでした。ギリシャ語でキリストと魚の頭文字が同じであるため迫害時代の信徒たちが互いの合図のために盛んに使用しました。今日なお、ローマのカタコンベ壁には、いくつもの魚の絵が残っています。(2025年1月発行「でめきん」冬号より)



③



④



①



②



⑤



「でめきん」ストーリー
これからも皆さんと共に

広報誌①「でめきん」創刊は1976年10月10日ですが、その年の5月1日無名の信徒広報誌が発行されています。でめきんの題字とロゴは宮川さんのデザインで、②2004年春号から④2018年春号までは、現在と同じA4サイズで印刷されました。⑤「でめきん」はこれからは教会情報の伝達や信徒間のコミュニケーションの醸成などに役立つ媒体でありたいと願っています。また子供たちの日曜学校通信誌⑤「ぶどうの木」は2003年創刊され、長年発行されましたが子供数の減少により、現在休刊しています。

教会年表—3(2008~2025)

Table with 5 columns: Year, Main Pastor, Church Events, Church Activities, and Social Events. It lists various events from 2008 to 2025, including church services, conferences, and social issues.

*印はモデラトル

献堂 70 周年記念
Since1955
祝
2025 August 15

聖母マリアとまをを祀る

皆さんの愛に包まれてグロッツのある風景を創る

母である聖母マリア様のグロッツ

ランディ神父（フィリピン宣教会）



2021年10月8日、江口さんから電話をいただきました。彼は「今の家は大きすぎるので、小さい家に引っ越そうかと考えている。でも、家の前の通り沿いにある聖母像だけは、そのまま置いていけな」と話して下さいました。私は翌日、福知山から車で

出かけ、郡山までその像を見に行きました。聖母と御子の美しいお顔を見て、私は「これはぜひ欲しい」と申し出ました。というのも、登美ヶ丘にある家のフィリピン宣教会の本部の庭にグロッツ（マリア像を祀る小聖堂）を作る計画があったからです。江口さんはとても喜びました。かつて自分の誇りと、信仰の象徴であった、大切な像に新たな居場所ができたことが嬉しかった、とのことでした。彼は、亡き奥様とともにこの像を通り沿いに設置し、横には掲示板を設置して聖書の言葉や教会に関する記事を掲示していたんですよ、と話して

くれました。これは夫婦の福音宣教の方法だったそうです。この像は何十年の間、家族で大切に管理され、多くの通行人を惹きつけてきたのです。私は一人ではその像を移動できなかったため、アントン神父と平井雅子さんに相談しました。平井さんは岡園さんに手伝ってもらおうように提案してくれました。

10月11日（金）、アントン神父とクレーン車を持った岡園さんと一緒に江口さんの家に向かい、像を引き取りました。像には200〜300キロのコンクリート台座がついていたため、まずは岡園さんの家に像を運んで下さるようお願いしました。10月17日（日）の午後、岡園さんが像を登美ヶ丘の幼稚園の駐車場に運んでくれました。ここでは江口さんとその友人たちがコンクリートを取り除くために待っていてくれました。像は長年、雨や日光など様々な環境にさらされていたため、かなり汚れていました。私は聖母像を洗ってあげることにしました。漂白剤を使い、司祭館のバスタブで一晩浸け置きました。

その年の12月初旬、像の移転から1ヶ月ほど経った頃、江口さんから再び電話がありました。ついには家が売れたそうです。「聖母マリア様が助けてくれた」と彼は言っていました。ではなぜカトリック大和郡山教会に落ち着いた

のか？

一方、2012年に大和郡山教会の司祭館に住み始めた時から中庭のマリア像が気になっていました。シスターポリーナと話をし、マリア像の上にバラのアーチを付けようと決めていました。福知山から帰ってきて、マリア像に再会した時、その像があまりにも小さく、雨にさらされ劣化していました。私の思いは、もう少し大きいマリア像とグロッツへと膨らみました。

登美ヶ丘の本部のリビングで、私はどこでどうやって新しい像を手に入れようかと考えながら書き出していました。ふと顔を上げると、江口さんからいただいた美しい像が目に入りました。まるで「私を連れて行って」と語りかけているかのようでした。そして、郡山への旅が始まりました。

私はこのプロジェクトに個人的な思いを込めたかったので、2024年11月の休暇中に、郡山のグロッツ計画の前段階として、小さなグロッツを作りしました。今回も岡園さんに助けをお願いしました。

プロジェクトが始まると、多くの人々が温かく支えてくれました。最初から力になって下さった登美ヶ丘教会の岡園さん、富雄教会の不殿初子さんは、自分の庭の石を惜しみなく提供してくれました。佐賀さんはお菓子を持って来てくれました。阪井さんご夫妻はバラの花を提供してくれました。そして郡山教会の信徒の皆さんは小石の掃除や他の支援をしてくださいました。

このことから分かるのは、たとえどんなに不可能に思えても、神を信頼し、私たちが神の道具となれば、神にとって不可能なことは何一つないということです。

神に感謝！ Thanks be to God!

いすで郡山教会を訪問できたことが忘れられませぬ。その後、亡き父（2023帰天）が、一軒家内での転倒等が続くようになり病状も悪化する中、郡山駅近くのマンションに引っ越しすることになり、旧宅の聖母子像を、ランディ神父さまのご配慮で神父様の修道院へ移すこととなったのです。その際、岡園さんや従兄に大変お世話になりました。この度、聖マリアの洞窟に安置されることとなり、きつと天国の両親も喜んでいる（喜んでる顔が浮かびます）と確信しています。

聖マリア様の洞窟、それは教会の信徒の守り場です。苦しいとき悲しいときその洞窟で癒されるときともに、私たちの天の父を賛美し「アバ父よ」と涙ながらに叫ぶことができることはなんとすばらしいことかと強く感じております。

「神の御母聖マリアグロッツ建立」に携わって

登美が丘教会 信徒 ラファエル岡園 伝



建設作業中の（右）ランディ神父と岡園さん

私はカトリック大和郡山教会に40年ほど前、大変お世話になりました。若かりし頃、妻と二人の娘らと熱心に通った思い出深い教会です。

今回、不思議な縁でランディ神父様とマリア石積み祠を作ることに感謝いたしています。皆様ご承知の通り、今回設置のマリア像は、今は亡き江口様ご夫妻が自宅玄関前に大切に祀られていた御像です。

この御像は通常の像より一回り大きく、台座に100キロ超えのコンクリートで固定されています。

人力ではどうにもならず台座にロープをかけ、クレーンで台座ごと引き抜きました。その後、私の山の家に1か月ほど宿泊され、江口様の手配により台座の切り離し作業がカトリック登美ヶ丘教会で行われました。切り離し作業後、今は亡き平井様ご夫妻が丁重に入浴を施され、きれいなお姿に変身されました。

そして神の思し召しでしょうか、最後には亡き江口様ご夫妻の教会にお帰りになりました。石積み祠工事（造作）に関しては、少々の地震が来ても倒壊しないように、外観からは見えない位置に縦横筋を入れ、石と石を完全につなぎセメントで固定しました。デザイン、前庭、照明など苦心しましたが、立派な石積み祠が完成して嬉しく思います。今後、マリア様はこの地で末永く皆様のためにお祈りしていただけることでしょうか。

父と母が愛した聖母子像の歩んだ道のり

江口 晋（西地区）

この度、神の御母聖マリアの洞窟に安置される



故江口紀興さん（右）
故江口ヒデ子さん（左）
=江口さん提供

ていただき感謝申し上げます。城町の旧宅の玄関に、聖母子像の安置を強く望んだのは、亡き母でした（2013年帰天）、亡くなる

数年前から療養しておりましたが、ベッドでの生活続く中で、玄関に大きな聖母子像を立ててほしいと強く望み、私の従兄の協力も得て安置することに、そして毎日ロザリオを繰る母は大変喜び、一時期病状も回復し、車



これまで私たちの祈りをお聞き届けくださったマリア様に、感謝します=教会中庭の先代聖母マリア像



ウォルシュ神父様に初聖体を受けた子供たちと家族のみなさん＝1999年11月28日 佐賀祥子さん提供



孫娘の洗礼です
今は亡きウィックス神父様、侍者の田中さん
おふたりの何とも言えない笑顔が素敵です。
＝2002年 阪井照子さん提供



グロリア クリスマス
キャロルの最後に聖歌『グロリア父と御子に聖なる霊に』を三部の輪唱で歌いました＝2006年
野島晴美さん提供



みことばかるた作り
かるたを手作りし、奈良地区文化祭に出品し展示されました
＝2007年
野島晴美さん提供



思い出のベトナム語ミサ
＝2019年10月



思い出の人 故田中さんと故江口さん＝2017年



初聖体集合写真
半年にわたって準備し、緊張の初聖体を終えてホッとした子どもたちと西野神父
＝2004年 野島晴美さん提供



義母がトラック島に慰霊の旅に出る時に撮った一家勢ぞろいの写真です
亡くなった義父とニューエージェント神父さまが懐かしい
＝2008年撮影 原田美和子さん（西地区）提供

とき
我が家の秘蔵写真

マリアさまの庭をつくる

この工事はカトリック大和郡山教会献堂70周年事業として2025年3月初旬に始まり同年8月15日まで。建立作業はランディ神父と登美が丘教会信徒の岡園伝さんによって実施されました。工事工程が集中する6・7月にはミサスケジュールの合間を調整され、週、2日の日程で行われました。



江口さん宅からマリア像搬出



マリアさまを入浴



型枠養生中のグロット



グロット石積みにもルタル充填



グロット前床舗装



先代マリア像移動後



ライトアップされたマリア像



ライトアップされた全体マリア像



ライトアップされたマリア像と慰霊碑



お像は聖母子像です



慰霊碑周囲の修景も実施されました



傷んだ聖具などを家庭より持ち寄り、お像前床に埋められました

教会歳時記

編集後記



出水神父による父の日の祝福＝6月15日



ランディ神父による母の日の祝福＝5月11日



ヨハネ釘宮銀河さん(東地区)の初聖体がランディ神父により行われました
右は姉の釘宮華蓮さん＝6月29日

● 毎年の8月15日の思い出は、現役時代はカーラジオから流れる「ウー」というサイレンに続いて「黙とう」という甲子園で行われている高校野球中継です。夏休みを家族と一緒に信州をドライブするのが定番でした。引退した後は、教会の「聖母の被昇天祭」が恒例となりました。そうした中で、今年の8月15日（終戦と献堂）は、改めて聖母マリアさまの大きなお恵みに感謝する日となりました。中庭にあるマリア像が一段と大きい聖母子像に代わり、雨風を防ぐグロットが作られました。ランディ神父さまと岡園さんに感謝します。

● 「でめきん」の歴史は、本誌に掲載した通りです。きっかけは私が勤務していた銀行時代に行内誌の編集を担当したこともあり、教会に転入すると同時に、当時の信者会長であった徳さんに教会報を作りましょうと話しかけたのが発端です。それから約半世紀にわたり、私が隔地転勤している間は女性の方々が担当してくださり続いてきました。最近の10年間は「隠れキリシタン」と自称される宮崎名カメラマンの助力をいただきオールカラーの立派な「でめきん」を発行できるようになりました。宮崎さんは写真のみならず、「高山右近の生涯劇」「浦上信徒流配150年祭」のシンボルマークを制作し

てもらいました。右近のマーク入りのTシャツは今でも着ています。

● 「戦後80年」と8月15日にむかって、マスコミ各社は終戦記念特集しています。戦争中から戦後の混乱期を経て80年。私たちの世代は何と幸せな世代であったことかとしみじみ思います。世界中で、特に昨今は戦禍が絶えませんが、次の若い世代が、先輩たちの教えに耳を傾け、戦争に巻き込まれず、英知を絞って、この混乱を乗り切ってほしいと切に願います。そして私たちの教会が良き後継者を得て、この大和郡山の地で80年、90年、100年と続きますように心から祈っています。（阪井）

● 記念誌の編集に関わってわかったことは、教会は数多くの司祭者に支えられ、信徒の皆さんの絶え間ぬ努力の結果として今日の教会があるということでした。また、現在と最も違うのは、多くの子供の声があふれる教会がそこにあったということです。私たちはこの少子高齢化社会を好機ととらえ、将来の教会像を描くことが大切であると思っています。（宮崎）

信徒消息

● 転入

大石高暢さん（東地区）が5月奈良教会から転入

● 訃報

北地区（旧西の京地区）ステファノ西原清隆さんが、6月28日に帰天されました。

東地区（旧中央地区）の西原文子様のご夫君、西原哲雄様が8月9日に帰天されました。ご冥福をお祈りいたします。